

■コメント

1. 手足口病

定点当たり5.88人と引き続き増加しています。

手足口病は、手のひら、足の裏、口の中の粘膜などに水疱性の発しんができるウイルス性の疾患で、幼児を中心に主に夏に流行がみられます。

この疾患は、回復して症状がなくなっても、1か月くらいは便などにウイルスが排泄されることがあるので、感染予防のためにも手洗いの励行を心がけましょう。

2. 腸管出血性大腸菌感染症

4件(O157)の報告があり、今年の累計は6件となりました。例年、気温が高い時期に多発する傾向にあります。また、子どもと高齢者は重症化しやすいため、特に注意が必要です。(次頁参照)

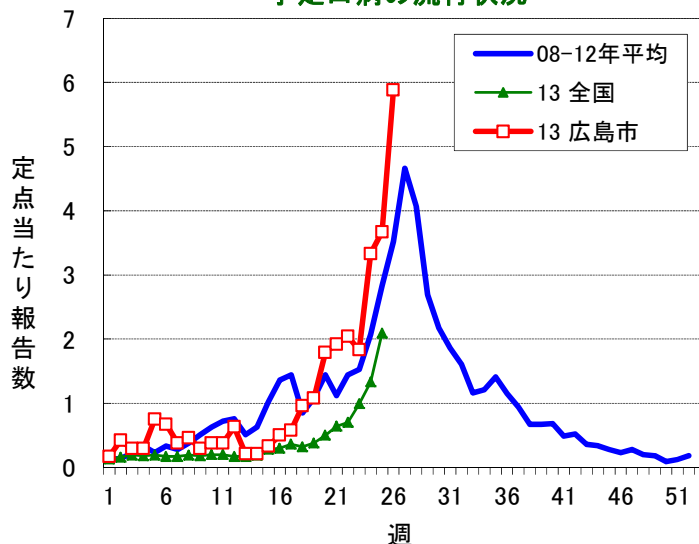
3. 流行性角結膜炎

定点当たり2.13人と、例年と比較して多い状態となっており、注意が必要です。

4. 風しん

4件の報告があり、今年の累計は29件となりました。

手足口病の流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間	発生記号	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間	発生記号
インフルエンザ	-	-	0.01		ヘルパンギーナ	12	0.50	2.06	
咽頭結膜熱	39	1.63	0.45		流行性耳下腺炎	2	0.08	0.64	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	19	0.79	1.53		RSウイルス感染症	4	0.17	0.07	
感染性胃腸炎	103	4.29	4.02		急性出血性結膜炎	2	0.25	0.05	
水痘	16	0.67	1.39		流行性角結膜炎	17	2.13	1.13	
手足口病	141	5.88	3.52		細菌性髄膜炎	-	-	0.06	
伝染性紅斑	1	0.04	0.38		無菌性髄膜炎	-	-	0.06	
突発性発しん	19	0.79	0.73		マイコプラズマ肺炎	-	-	0.57	
百日咳	1	0.04	0.11		クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	

急増減 ↑ ↓ 前週と比較しておおむね1:2以上の増減

増減 ↗ ↘ 前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減

微増減 ↖ ↙ 前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減

横ばい ⇐ ⇓ ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	7	89	男性(40歳代)・1人、女性(40歳代)・1人、男性(70歳代)・3人、男性(80歳代)・1人、女性(80歳代)・1人
3	腸管出血性大腸菌感染症	4	6	女性(10歳代)・O157、女性(20歳代)・O157、男性(40歳代)・O157、女性(40歳代)・O157
5	風しん	4	29	男性(30歳代)・2人、女性(40歳代)・1人、女性(50歳代)・1人

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

			インフル エンザ	咽頭結 膜熱	A群溶 血性レ ンサ	感染性 胃腸炎	水痘	手足口 病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパ ンギー ナ	流行性 耳下腺 炎	RSウイ ルス感 染症	急性出 血性結 膜炎	流行性 角結膜 炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズ マ肺炎	クラミ ジア肺 炎
報告数	広島市	第22週	13	27	44	185	29	49	1	13	-	5	7	4	-	17	-	1	1	-
		第23週	1	44	36	157	29	44	-	14	-	10	7	4	-	17	-	1	-	-
		第24週	-	57	37	152	32	80	1	9	-	12	13	2	-	19	-	1	1	-
		第25週	-	50	43	114	22	88	-	12	-	10	9	4	1	11	-	1	-	-
		第26週	-	39	19	103	16	141	1	19	1	12	2	4	2	17	-	-	-	-
定点当 たり	広島市	第22週	0.35	1.13	1.83	7.71	1.21	2.04	0.04	0.54	-	0.21	0.29	0.17	-	2.13	-	0.14	0.14	-
		第23週	0.03	1.83	1.50	6.54	1.21	1.83	-	0.58	-	0.42	0.29	0.17	-	2.13	-	0.14	-	-
		第24週	-	2.38	1.54	6.33	1.33	3.33	0.04	0.38	-	0.50	0.54	0.08	-	2.38	-	0.14	0.14	-
		第25週	-	2.08	1.79	4.75	0.92	3.67	-	0.50	-	0.42	0.38	0.17	0.13	1.38	-	0.14	-	-
		第26週	-	1.63	0.79	4.29	0.67	5.88	0.04	0.79	0.04	0.50	0.08	0.17	0.25	2.13	-	-	-	-
	全国	第24週	0.26	0.71	2.16	5.47	1.35	1.33	0.10	0.66	0.01	0.41	0.28	0.10	0.03	0.61	0.01	0.04	0.57	0.02
		第25週	0.17	0.71	1.83	4.68	1.17	2.09	0.08	0.66	0.01	0.63	0.33	0.11	0.02	0.60	0.01	0.03	0.54	0.02

■新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
感染性胃腸炎	発熱 下痢 痙攣	0	男	2013/05/04	糞便	サポウイルス アストロウイルス
					咽頭拭い液	RSウイルス アデノウイルス2型
水痘	水疱	4	女	2013/05/25	咽頭拭い液	水痘帯状疱疹ウイルス
突発性発しん	発熱(38.5) 発疹	3	男	2013/05/13	咽頭拭い液	アデノウイルス4型
その他の消化器疾患	腸重積	2	男	2013/05/25	糞便	アデノウイルス5型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

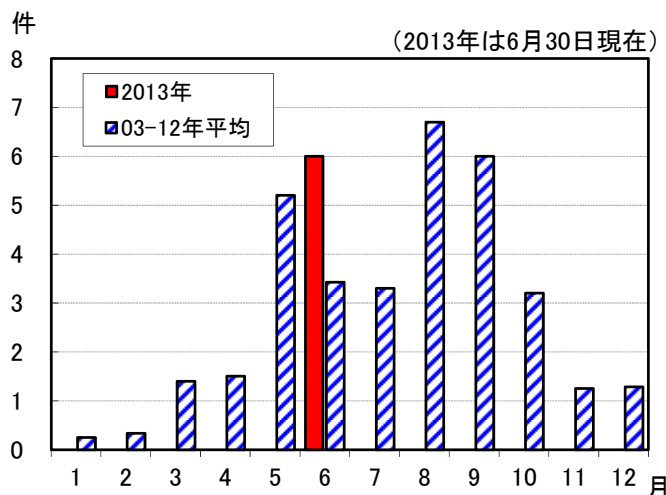
★腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう

腸管出血性大腸菌は、経口感染がほとんどで、汚染された食品を食べたり、患者や保菌者の汚染された手指を通して感染します。熱には弱いですが、感染力が強くわずか数十個でも感染すると考えられています。

予防のために次のことに特に注意しましょう。

- 手洗いを励行しましょう。
- 肉・レバーなどはよく加熱し、生食は控えましょう。
- 焼肉の時は、生肉を取るはしと食べる時に使うはしを別々にしましょう。
- 食品は衛生的に取り扱い、調理器具はよく消毒しましょう。
- 乳幼児のおむつの取り扱いには十分注意しましょう。
- 簡易プールを介して感染することも考えられるので、衛生管理に気をつけるとともに、入る前によく体を洗いましょう。

腸管出血性大腸菌感染症の月別報告数(広島市)



本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2013年第26週(6月24日～6月30日)